

# HELLO PSJ

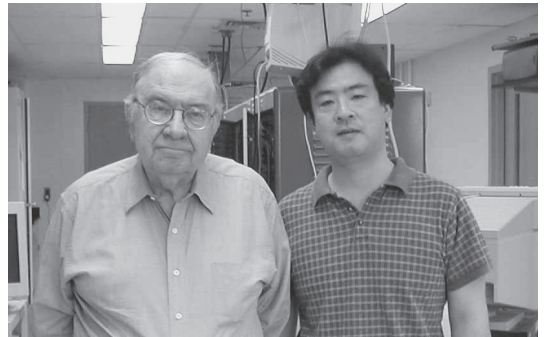
## 月面宙返りは made in Japan

The Zanvyl Krieger Mind/Brain Institute

The Johns Hopkins University, Baltimore, MD, USA 杉原 忠

現在、米国メリーランド州ボルチモア市にあるジョンズ・ホプキンス大学で Associate Research Scientist として働いています。ジョンズ・ホプキンス大学 (JHU) はしばしば「ジョン」・ホプキンスと間違われます。大学の歴史にはあまり触れませんがひとつだけ、この不思議な大学名について補足すると、Margaret Johns さんと Gerard Hopkins さんが1700年に結婚し、息子の名前を Johns Hopkins としたことからはじまっています。大学設立に直接貢献されたのはその Johns Hopkins 氏の孫にあたる方ようです。日本でもおなじみのドラマ「ER」の出演者が、病院に見学に来たという噂の医学部をはじめ、2002年、2003年とノーベル賞を受賞した(宇宙)物理学、生化学なども有名です。システム神経科学に身を置く者にとって忘れてはならないのは、第一次視覚野の精力的な研究でノーベル医学・生理学賞を受賞した Hubel, Wiesel 両博士も JHU で研究していたという事実です。

私は Zanvyl Krieger 氏の寄付で設立された研究所 (Mind/Brain Institute : MBI) に勤めています。お金持ちが寄付して研究所を作るあたりが実にアメリカらしいです。研究所は Homewood キャンパスにあり、そこには文科系、理科系の学部があります。医学部はボルチモアの観光スポットである港に近いところにあり、Homewood キャンパスからは少し離れています。医学部には多くの日本人研究留学生がいるようですが、Homewood キャンパスではあまり出会うことはありません。



Poggio 博士 (左) と筆者。Poggio 博士は視覚野の研究で多くの功績をあげられました。現在はイタリアに戻られています。

MBIの一週間は月曜のランチから始まります。この昼食は MBI から提供されます。メニューは、ピザ、サンドイッチ、中華、ギリシャ風料理などです。来た当初は、このランチのサービスに感激しましたが、2年目からはワンパターンのメニューにやや食欲を落としております。このランチで学生も含め所員全員が顔を合わせるわけです。和やかな雰囲気のレストランですが、教授陣との会食ということで多少緊張します。体性感覚研究の権威である Mountcastle 名誉教授が海軍の従軍医であった話などを本人から直接伺うこともあります。天気の良い日には建物から抜け出して、芝生の上で食事を取るのも気持ちの良いものです。また水曜日の夕方に論文紹介のセミナーがあり、そのときにも同じような食事が出ます。ビールも出ます。

現在私は、von der Heydt 教授が主任研究員を



Mr. Bills, the heart of Mind/Brain Institute. エンジニアの Bill Nash 氏 (左) と Bill Quinlan 氏 (右). 特にメカニカルなハードウェアの製作を担当. 2003 年度 the Arts & Sciences Staff Recognition Awards 大賞受賞.

務める研究室に所属しています. 彼は「主観的輪郭」に反応する細胞をサルの第二次視覚野で見つけた業績で有名です. 現在は, 「Border Ownership」— 視覚イメージの境界を図あるいは背景に結びつける情報コーディング—に興味を持ち研究をしています. この研究所の主任研究員は大学の教員との兼任です. 主任研究員でも教授になると, 授業は数年に1コマ回ってくるだけのようです.

日米の文化的違いは多々ありますが, 研究・教育に関するシステムの違いもその一例です. 例えば MBI には, 電気・機械系の専属エンジニアが勤務しています (写真2). 彼らの能力は非常に高く, 話し合いを通じて希望の装置を完成してくれます. 日本の研究施設でもこのような人たちを

雇用することが一般的になれば研究者にとってプラスになるでしょう. しかし, 我々研究者がエンジニアを鍛えるためにも, 機器に関するある程度の知識は身に付けておくべきでしょう.

次に学生に対するサポート体制です. 大学院生のほとんどが授業料を免除されます. 教官の授業補助を行うことで, 免除を受ける学生もいるようです. さらに大学院生には日本円で20万円程度の実質的な給料が払われています. このようなサポートのおかげで, 「バイト」をして食いつなぐ大学院生は見かけません. 日本で実現すれば, 金銭的負担を理由に進学を断念していた学生が躊躇なく大学院進学を希望するのではないかと思います.

研究・教育のシステムはアメリカの方が良いかもしれませんが. しかしこちらに来て, 丁寧に仕事をする日本らしさが質の高い研究には欠かせないことがよくわかりました. 諸外国を見習いつつ, 日本らしさを忘れないことが大切かもしれません. Tsukahara と言えば, 私は故塚原伸晃先生を思い出しますが, もう一人, 体操競技で世界に Tsukahara の名を知らしめた日本人がいることをご存知でしょうか. 回転レシーブも女子バレー日本代表が世界に先駆け開発・披露したものです. 独創的な発想を日本は持っています. メダル・ラッシュのアテネ五輪を見て, 研究の更なる発展のためには長期的な視点に立った研究者の「底上げ」や「ジュニアの強化」が必要なのだろうかと思いました.